

# 新潟市民病院整形外科専門研修プログラム

## 目次

- 1 新潟市民病院整形外科研修プログラムについて
- 2 専門研修後の成果
- 3 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの特徴
- 4 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの研修方法
- 5 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの評価方法
- 6 新潟市民病院整形外科専門研修プログラム連携施設
- 7 専攻医受入数
- 8 地域医療・地域連携への対応
- 9 実際の研修予定
- 10 サブスペシャリティ領域との連続性について
- 11 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件
- 12 専門研修プログラムを支える体制
- 13 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
- 14 専攻医の採用

## 1 新潟市民病院整形外科研修プログラムについて

新潟市民病院整形外科の理念は、全ての運動器疾患・外傷に対し、高いレベルの急性期治療を行うことで、患者さんに高いレベルの機能回復をもたらすことである。そして、当科を基幹施設として行う研修プログラムの理念は、「全ての運動器疾患、外傷症例に対し、的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うために十分な能力を身につけること、かつ運動器疾患・外傷医療の進歩に寄与するための研究を行うための基礎的能力を身につけること」である。

この理念を達成するために、専門研修プログラムでは以下1~4の修得を重要視している。

1. 運動器疾患、外傷治療のプロフェッショナルとして必要な知識、技術を身につける。このためには、臨床現場での多くの経験、特に手術室や救急室での経験、講義・カンファランス・勉強会を通じた知識の獲得、模擬骨などを用いた手術テクニックの修得トレーニング、などが必要になる。
2. 同僚医師、他科医師、関連他職種も含めた診療チーム内でのリーダーシップ、コミュニケーション能力を高める。これにより診療チーム全体の総合力を上げることを可能とする。
3. 診療、研究の内容を、特に倫理的観点から客観的に見て、記載する能力を身につける。また、豊かな人間性を身につけ、患者さんを全人的に治療することを目標とする。
4. 臨床の場で時に遭遇する、困難な状況に負けない対応力を身につける。これには、先輩医師の指導下に安全性を担保しながら、困難な場面を切り抜ける経験を積むことが重要である。

当院には、重症運動器疾患や多発外傷を含む重症外傷が多数受診され、救命科を始めとする他科と協力しながら、超急性期から急性期の高度治療を行っており、この治療にチーム治療の一員として参加していただくことで、救命を目指しながら回復後の機能回復を最大限にするための治療を行うことを学んでいただく。新潟市民病院への受診が少ない軽症の外傷については、連携施設に多数受診しているため、同院での研修中に十分経験が可能である。

また当院では、重症から軽症までの多数の手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、スポーツ外科、リハビリテーション治療を行っており、十分な経験を積むことが可能である。日々の研修の際に、遅滞なく指導を受けることが重要なので、検討会、回診を連日行っている。新潟市民病院に比較的症例が少ない関節リウマチ、小児整形外科、軟部および骨腫瘍治療に関しては、新潟大学医歯学総合病院などの関連施設にて、研修を行う。

3年9か月間の研修期間中、多発外傷や重症外傷、重度併存症合併患者の全身的治療、管理についても学んでもらうがHigh volume、High qualityな研修により整形外科専門医に求められる全ての要素を身に着けたTop surgeonの育成を目指している。

2024年度、新潟市民病院における年間新患数は1708例、手術件数は1267例だったが、当プログラムを構成する病院名と各施設の指導医数、年間新患数、年間手術件数を表に示す。このプログラムに参加する病院の指導医数は101名、合計年間新患数は52476例、手術数は23737件であり、多数の指導医からの的確な指導を受けながら、診察や手術の執刀

や助手などの多くの経験を積むことが可能である。特に外傷に関しては全国有数の症例数を経験可能である。

### 当プログラム参加施設の2024年実績

	指導医数	年間新患数	手術数								合計
			脊椎脊髄	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	
新潟市民病院	5	1708	260	144	379	413	15	25	19	12	1267
新潟大学医歯学総合病院	19	1616	245	73	163	139	33	14	33	186	886
県立中央病院	6	1888	119	419	424	156	14	39	49	23	1243
魚沼基幹病院	6	3106	229	92	195	779	10	54	21	67	1447
県立がんセンター	3	1190	0	3	2	10	0	0	0	273	288
長岡赤十字病院	6	2606	233	64	133	897	98	0	59	41	1525
立川総合病院	3	2135	0	203	275	577	0	38	11	13	1117
新潟臨港病院	2	857	0	86	93	223	0	9	0	14	425
済生会新潟病院	4	1728	0	368	214	431	5	48	28	3	1097
新潟医療センター	3	1414	0	132	354	60	0	258	48	5	857
長岡中央総合病院	6	2593	330	470	211	395	1	99	2	1	1509
新潟中央病院	8	4799	841	437	545	702	13	90	46	22	2696
県立新発田病院	4	2955	138	60	192	586	0	17	0	15	1008
柏崎総合医療センター	1	2108	51	146	96	350	0	33	0	37	713
佐渡総合病院	2	7035	31	199	84	287	0	13	0	29	643
新潟リハビリテーション病院	1	3241	0	66	111	116	0	36	14	4	347
水戸済生会総合病院	5	2000	248	171	248	569	1	0	55	13	1305
鶴岡市立荘内病院	2	2689	0	319	235	413	3	35	16	20	1041
済生会新潟県央基幹病院	4	750	18	239	125	353	2	14	2	4	757
県立十日町病院	1	2415	0	155	68	369	0	8	0	12	612
富永草野病院	7	1532	363	840	351	614	0	122	13	27	2330
新潟万代病院	2	1186	0	3	360	79	0	0	0	2	444
あがの市民病院	1	925	0	62	13	99	0	2	0	4	180
合計	101	52476	3106	4751	4871	8617	195	954	416	827	23737

医療機関	指導可能な研修領域										指導医数
	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療	
新潟市民病院	●	●	●	●	●	●			●	●	5
新潟大学医歯学総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
県立中央病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
魚沼基幹病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
県立がんセンター		●	●					●	●		3
長岡赤十字病院	●	●	●	●	●	●			●	●	6
立川総合病院		●	●	●	●	●	●				3
新潟臨港病院			●	●						●	2
済生会新潟病院		●	●	●		●	●		●		4
新潟医療センター		●	●			●			●	●	3
長岡中央総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
新潟中央病院	●	●	●	●	●	●	●		●	●	8
県立新発田病院	●	●	●	●		●		●	●	●	4
柏崎総合医療センター		●	●	●							1

佐渡総合病院		●	●	●		●			●	2
新潟リハビリテーション病院						●		●	●	1
水戸済生会総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5
鶴岡市立荘内病院		●	●	●				●	●	2
済生会新潟県央基幹病院		●	●	●		●		●	●	4
県立十日町病院		●		●					●	1
富永草野病院	●	●	●	●		●	●	●	●	7
新潟万代病院			●	●				●		2
あがの市民病院			●	●		●				1

## 2. 専門研修後の成果

専攻医はこのプログラムによる研修により、以下の8項目を備えた整形外科専門医となることが期待される。

- 1) 運動器疾患、外傷について適切な診断を下し、標準的治療を行うことができる
- 2) 運動器疾患、外傷治療の際に経験する合併症に対し適切な治療、管理を行うことができる。
- 3) 運動器疾患以外の併存症について評価し、各科専門医と協力し全身管理ができる。
- 4) 適切なリハビリテーション処方、装具処方ならびに回復期病院へ適切な引き継ぎが可能となる。
- 5) 医の倫理に配慮した判断、行動が可能となる。
- 6) 患者や医療関係者と適切にコミュニケーションすることで治療をスムーズに行うことができる。また、チーム医療のリーダーとして、チーム全体の総合力を上げ、医療の質を向上するための行動を継続する。
- 7) 診療記録を的確に記載できる。
- 8) 整形外科の進歩に合わせた生涯学習を行う姿勢を修得し、また後輩医師を指導する能力を持ち、さらに整形外科の進歩に寄与する研究を実践するための基盤を獲得する。

## 3. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの特徴

- 1) 全国有数の救急搬送患者を受け入れている新潟市民病院（2021年の救急車搬入5320件、内外傷症例945件、ドクターカーを運用）で研修を行うことで、どのような運動器疾患、外傷の急性期治療についても対応可能となる。救命科との連携が良好なことも大きな特徴である。
- 2) 新潟市民病院には手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、外傷治療、スポーツ医学、リハビリテーションの専門医が、また関連施設の新潟大学医歯学総合病院には、リウマチ、小児整形、腫瘍、リハビリテーションの専門医が指導医として勤務しており、最新の治療を経験することが可能。
- 3) 同じ新潟市内に位置する新潟大学と連携したプログラムであるため、大学において開催される検討会や研究会に参加する機会が多く、最新知識を得ることが可能である。
- 4) プログラムに参加する各病院の症例数が豊富なため、研修中に執刀可能な手術件数が多い（年間120件以上、3年9か月間で500件を目標とする）。

- 5) 整形外科研修医向けに、模擬骨を用いた骨折手術トレーニング、ギプス装着実技の講習会を開催。また、専門医資格取得に向けて各指導医（院外医師を含む）からの集中講義を開催している。
- 6) 新潟県医師養成修学資金を貸与している修学生では、一般コースで4年、重点コースでは7年の新潟県内の病院で、新潟市外の病院での勤務が必要となるが、当プログラムでは県立新発田病院、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、魚沼基幹病院、県立中央病院が連携施設となっており、新潟市民病院1年、新潟大学医歯学総合病院1年以外の期間については新潟市外での勤務も可能である。

#### 新潟市民病院整形外科週間予定

	月	火	水	木	金
朝 8～9時	検討会	検討会	検討会 抄読会	検討会	検討会
午前	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来
午後	リハビリ検討会 脊椎検討会	手術 検査	手術 検査	手術 検査	手術

#### 4. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの研修方法

##### ①臨床現場での学習

整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、新潟市民病院ならびに連携施設において研修を行う。当プログラムにおける専門知識習得の年次ごとの到達目標と専門技能修得の年次ごとの到達目標は、同上解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能修得の年次毎の到達目標」に準じるものとする。

実際の研修は、1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、当院ならびに連携施設において各分野の定められた単位数以上を研修し、3年9か月間で45単位を修得する。

##### ②臨床現場以外の学習

上記した様に、模擬骨を用いた骨折手術の実技トレーニング、ギプス装着講習、指導医による講義を開催している。日本整形外科学会学術集会時の教育研修講演、関連学会、研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修講演、などにおいて運動器疾患、外傷の標準的治療や、先進的な研究成果などを学習する。新潟市民病院が開催する、年2回の研究会や新潟大学が開催する年5回の整形外科研究会においては、多領域の大学教授クラスの講演を聴くことが可能。また、新潟市民病院や新潟大学が主催する、医療倫理、医療安全、感染予防、統計学、他分野の研修会に参加することで、幅広い知識を獲得可能である。A0コース、日本骨折治療学会主催の講習会への参加も推奨している。

新潟市民病院には院内図書室が整備されており、多くの雑誌がオンラインで自分のコンピューターから購読可能である。稀な文献に関しては図書館司書に取り寄せてもらうことが可能である。またClinical Key, UpToDate AnyWhere 及び医中誌を閲覧可能で最新の医学情報が入手可能である。

#### 5. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラムの評価方法

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用いる。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキ

ユラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価、指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行う。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価する。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行う。

#### 総括的評価

##### 1) 評価項目・基準と時期

専門研修最終年度の12月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを修得したかどうかを判定する。

##### 2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行う。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行う。

##### 3) 終了判定のプロセス

研修プログラム管理委員会において、各専門研修関連施設の指導管理責任者を交えて専門研修終了判定を行う。判定基準は

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること（別添の専攻医獲得単位報告書を提出）
  - ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
  - iii. 臨床医として十分な適正が備わっていること。
  - iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を修得していること。
  - v. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること。
- の全てを満たしていることである。

##### 4) 多職種評価

専攻医に対する評価判定に多職種（看護師、技師等）の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表（資料10）に記入する。

## 6. 新潟市民病院整形外科専門研修プログラム連携施設

新潟市民病院整形外科研修プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りで、専門研修連携施設の認定基準を満たしている。連携施設は以下の19施設である。全ての研修を新潟市内（佐渡総合病院での地域医療研修3か月間を除く）で完結可能なコース選択も可能であるが、新潟県医師養成修学資金を貸与している修学生では新潟県内かつ新潟市外の病院での勤務が必要となるが、当プログラムでは新潟市民病院1年、新潟大学医歯学総合病院6か月から1年以外の期間については新潟市外の連携施設である県立新発田病院、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、魚沼基幹病院、県立中央病院での研修も可能である。

#### 【新潟大学医歯学総合病院】

新潟市民病院からは車で20分ほどの距離にある。（I型基幹病院として独自プログラムあり）1977年日本で4番目の整形外科講座として開講し、これまでも多数の優秀な整形外科医を輩出してきている。整形外科指導医は19名勤務している。大学院進学やサスペンシリティ研修制度があり、本研修プログラム終了後に進むことが可能である。また本研修プログラム終了後に新潟大学整形外科学教室に入局する事が必要となります。

### 【新潟県立中央病院】

救命救急センターを併設し上越地域の3次救急を行っています。重傷患者の全身管理は救急科Drと連携して行っています。多くの外傷治療を経験できますし、各専門分野に精通した整形外科医が常勤し、整形外科のほぼ全領域にわたり研修が可能です。院内連携と地域連携がよいことも特徴のひとつです。例えば、大腿骨近位部骨折は年間220例ほどですが、受診後48時間以内に84%の症例で手術治療が行われ、3週間以内に回復期病院へ転院しています(2022年)。2012年から院内と地域で取り組んでいる2次骨折予防により2次骨折発生率は着実に低下しています。

病院からは日本百名山のひとつでスキーや登山が盛んな妙高山がきれいに見え、車で50分の距離です。また、直江津海岸までは車で15分です。海から山までさまざまな観光やスポーツも楽しめます。

### 【魚沼基幹病院】

当院は新潟大学地域医療教育センターの役割をもち大学病院をはじめとする教育機関で長年勤務していた指導医が整形外科のみならず多くの診療科で診療と研究、教育をしています。新幹線浦佐駅の近くにあり、整形外科医常勤10人で多数の症例の外来診療と手術を経験できます。脊椎、上肢、下肢、腫瘍、リウマチ、スポーツといった領域のスペシャリストが丁寧な指導を心がけています。新潟大学と親密に連携をとり、大学病院からの専門医の応援を常に受けています。3次救急や高度医療を救急医や他科の医師と協力して行う一方で、地域の患者さんのプライマリーケアを経験できる総合病院です。スキー場に病院から5分で到着でき、周囲には登山や自転車で大自然を心ゆくまで楽しめるフィールドが広がっているのも大きな魅力です。

### 【新潟県立がんセンター新潟病院】

当院の整形外科は手術の大半が骨軟部腫瘍で、良性から悪性まで腫瘍の診断から治療(手術や化学療法、放射線療法)、術後のリハビリテーションに対して研修期間中に必ず症例経験ができます。また、がんの骨転移も多く、診断と骨折・麻痺・疼痛に対する対応、がんのリハビリテーションまで、学ぶことができます。

### 【長岡赤十字病院】

新潟県中越地区での三次救急を含めた中核病院であり、県内で稼働している2機のドクターヘリの拠点の一つでもあることから救急科とともに重度外傷を含めた様々な外傷・急性期治療を経験できます。重度外傷だけではなく一般的な一次・二次外傷にも幅広く対応しており外傷を含む急性期疾患に関しては偏りなくほぼすべて経験することが可能です。それらに対応する各分野に指導医が常駐しているので研修として初歩的な外傷から段階的に経験を積むことができます。

急性期疾患のみではなく脊椎・リウマチ関節・手外科の各専門医が変性疾患にも積極的に手術治療を行っており県内有数の手術件数となっています。初期研修としてほぼすべての領域に携わることが可能であり整形外科医としての基礎を築くための最適な環境を提供することができると思います。

### 【立川総合病院】

・股関節拠点病院です。年間200件以上のTHA、こだわりの骨切り術を行っています。Hip Jointに関心がある方にはお勧めです。

- ・長岡日赤、長岡中央と共に、長岡市周辺の二次救急輪番を担当しているため、3日おきにそれなりの数の救急車がやってきます。しかし、基幹病院ではありません（人員は他2病院の半分）。従って、傍流系、アウトサイダー向きの病院だと思います。
- ・スタッフは、T H Aで多忙な股関節医2人・若手医1人・疲れた中年医2人の5人体制です。手術をやりたい盛りの若手 Dr. にとっては、学年の近い同僚と症例を分け合ったり、取り合ったりすることがない、そこがメリットかもしれません。
- ・最大の売りは、病院がお洒落なことです。2016年に新築移転しました。大手ゼネコン5社の中で、優れたデザイン力を強みとする竹中工務店が設計、施工しました。2017年の日本空間デザイン賞、日本サインデザイン賞を受賞した建築物で、細部までこだわりがあり、飽きがきません。建築探訪が趣味の先生には最適です。

### 【新潟臨港病院】

#### 新潟臨港病院整形外科の3つの特徴

1. 下肢外傷の治療では、日本骨折治療学会評議員でもある専門医が指導します。
  2. 股関節では当院も開発に関与した3次元術前計画ソフトとジグを用い正確な設置を目標に手術をしております。前日本股関節学会評議員の専門医が指導します。
  3. グループ病院である新潟万代病院（股関節手術に特化して担当）と一体となり、多様な環境での充実した研修を提供します。
- 子育て支援のため保育所を併設しています。子育て中の医師も安心して研修が可能です。

### 【済生会新潟病院】

新潟市内の新たな救急拠点病院として選定され、多くの救急車を受け入れて5人の専門医と2名の専攻医にて充実した麻酔科・手術室環境や各診療科との連携のもとで、四肢・関節の外傷・疾患を多数担当することが可能です。2023年度は大腿骨近位部骨折の手術は200例を超えています。

将来の希望として関節外科を専門としていきたい方には、肩・膝・股関節・足の外科・手の外科それぞれのエキスパートと共に豊富な症例を経験し、3D画像を用いた術前計画による人工関節手術や関節鏡を駆使した低侵襲治療の専門的研修も可能です。

病院在籍の初期研修医もほぼ通年でローテーションして研修するため、「初期研修医の指導」も体験することにより、自らの知識と技術をさらに高めることもできます。働き方改革も積極的に進めており、できるだけ日当直後の代休取得を行っております。保育施設も完備しており、小さなお子様がいても安心です。

### 【新潟医療センター】

- ・整形外科常勤医6名、うち専門医5名。非常勤専門医2名の体制です。
- ・スポーツ疾患では充実したりハビリ部門と協力し新潟県内最高レベルのスポーツ障害治療を行っています。
- ・人工膝関節置換術に対しては世界的な評価を受けている独自開発のIT技術によって正確な手術を行っています。
- ・生体力学研究の拠点となっており、これまで多くの専攻医が当院で行った研究で学位を取得しています。
- ・一般外傷の受け入れも積極的に行っており、新潟市における整形外科二次救急の中核を担っています。
- ・保育所が併設されているため、女性医師も安心して研修が可能です。

### 【長岡中央総合病院】

長岡市及び新潟県中越地区の中核病院として外傷（スポーツ外傷を含め）、変性疾患等幅広い整形外科疾患に対応しています。整形外科医は10名（指導医5名）で、そのうち手外科2名、脊椎外科4名、膝・肩関節外科2名、専攻医2名で診療を行っております。一般外傷はもちろんですが、手外科専門医、脊椎脊髄外科指導医・専門医、公認スポーツドクターのもとで専門分野の研修が可能です。基本的には研修医に積極的に執刀医となってもらう方針です。多様な症例と多くの手術症例がありバランスのとれた研修ができます。また当院は内科はじめ他科も充実しており、合併症をもった症例にも対応でき、幅広い研修が可能です。

### 【新潟中央病院】

整形外科指導医は計8名おり、指導可能な研修はリウマチ・腫瘍以外の全7領域です。急性期（一次、二次救急）から慢性期へと各領域にスペシャリストが複数おり、しかも整形外科だけで年間手術件数は2,696件（2024年：上肢437件、下肢545件、脊椎841件）と非常に多いため、幅広い、しかも深みのある経験ができます。手術室は7部屋（うちクリーンルーム1部屋）あり、平日の朝から夕方までほぼフル回転で稼働しております。リハビリテーションのスタッフは30名以上おります。国内外の学会活動も盛んに行っています。院内保育も完備しており、安心して研修に集中できます。

整形外科専門医11名が在職し、脊椎、手外科、関節外科、外傷、骨粗鬆症、リハビリを分担しています。研修医は救急・外傷患者の診療が主になりますが、若い方の新しい発想、先端医療の導入に対してベテラン医師も柔軟に対応しております。

### 【新潟県立新発田病院】

当院は救命救急センターを併設した県北地域の唯一の広域基幹病院です。24時間体制で救急医療に対応し、年間救急車受け入れ件数は5500件を超えています。整形外科医10名が常勤、うち7名が日本整形外科学会専門医であり、脊椎・手・股関節・膝関節・スポーツ傷害の各分野の専門医が常勤しています。

四肢、脊椎外傷などの症例は多く、上級医の指導の下、専攻医が執刀する機会に恵まれています。大腿骨近位部骨折症例は年間200～250例に達し診断から手術、後療法まで十分に経験することができます。

### 【柏崎総合医療センター】

整形外科常勤医4名、うち専門医2名。非常勤専門医2名で診療を行っております。非常勤専門医はそれぞれ大学病院で腫瘍、脊椎脊髄の指導をしている医師（川島教授、大橋准教授）であり、専門性の高い症例の経験も可能です。柏崎医療圏で唯一整形外科常勤医がいる地域中核病院であるため、圏域内の整形外傷、整形疾患はほとんどが当院に集まり、非常に豊富でバランス良く多岐にわたる症例を経験できます。年間手術件数は外傷を中心に約1000件で、医師一人あたりの手術件数は県内トップクラスですが、メディカルとのチームワーク、医療クラークへのタスクシフティングで、多忙になりすぎることなく効率的に質の良い医療を提供しています。多くの標榜科がそろった総合病院で、他科や他職種、多職種との連携が取れている働きやすい病院です。

### 【佐渡総合病院】

当院は佐渡島唯一の総合病院であり、約5万人の島民の整形外科疾患に対する治療を一手に引き受けています。当院の特色としては、大学膝グループと共同で診療に当たっていることから、ロボット支援下人工膝関節置換術や人工肩関節置換術、膝・肩などの関節鏡

手術全般がコンスタントに経験できます。また、島内で発生した外傷はほぼ全て当院で治療に当たっており、外傷治療、手術も多数経験できます。現在、膝、Handの指導医が常駐しており、その他大学からの脊椎外科定期出張や股関節外科の派遣もあり、一般的な整形外科研修は当院で完結できると言えます。当院の外来はフリーアクセスのため、年間7000例を超える新患数ですが、指導医がサポートしながら多くの外来診療も経験可能です。自然豊かで、食べ物もお酒も非常に美味しい佐渡で一緒に研修しましょう。

#### 【新潟リハビリテーション病院】

当院は新潟市北区にある急性期、回復期病床を有するケアミックスの一般病院です。近隣の整形外科救急に対応するとともにスポーツ整形外科に力を入れています。新潟医療福祉大学や高校のトップアスリートの受診も多く、新潟大学整形外科教室の膝スポーツ班と連携した診療を行っています。膝人工関節ロボット支援手術や骨折リエゾンサービスなど特色ある医療を積極的に展開しています。

#### 【水戸済生会総合病院】

水戸済生会総合病院の5つの特徴

1. 茨城県のドクヘリ基地でありかつ水戸市のドクターカーが常駐するため、重度外傷（多発骨折、開放骨折、頸髄損傷など）が多く、症例に事欠かない。
2. 麻酔科医が当直体制にあり、緊急手術にもきわめてスムーズに対応できる。
3. 地域医療支援病院であるため変性疾患も万遍なく紹介され、ほとんどが併存症をもつ患者さんのため、応用力、判断力がつく。
4. 茨城県立こども病院を併設しており、筑波大学の小児整形外科担当医師も一緒に診療チームになっているため、新潟では経験できない症例、手術の経験が出来る
5. 県庁所在地のため研修会も多く、また東京などでの学会にも行きやすい。

#### 【鶴岡市立荘内病院】

鶴岡市をはじめとする庄内地区の基幹病院であり、二次救急を担っています。整形外科医6名が常勤し、大腿骨近位部骨折年間約250件をはじめ、一般外傷の治療を多数行っています。特殊な治療は少ないですが、外傷だけでなく、各専門領域の中でも専攻医に必要な頻度の高い疾患を多数経験し、「習うより慣れよ」というように体で覚えていくには最適です

#### 【済生会新潟県央基幹病院】

当院は県央地域の2つの病院が統合、そのほか3つの病院の専門的な手術などの機能を集約し、救急科や産婦人科など31の診療科に、400床の病床を備えた地域の中核病院であり、2024年3月1日に開院しました。整形外科・外傷再建科では、県央地区の整形外科・外傷の治療を広く担っております。総合診療部をはじめとした診療科が県央地区では最も充実しており、併存症のある患者においても各科によるバックアップをうけながらの治療が可能となっております。また手術室も毎日最低1室は外傷枠として確保されており、整形外科・外傷再建科としても毎日2~2.5列、手術室が使用できる状態であり、開院して1年が経過した現在、年間1000ペースで手術を行っております。特に専攻医にとって重要な外傷治療に関しては、近位部骨折を初めとしたcommon fractureから骨盤骨折などのspecialtyの高い治療まで経験豊富な指導医の元、経験を積むことが可能です。

また、その他、変性疾患に対する治療や手外科手術、スポーツ外傷・疾病など手術を中心に診療をしております。県内では数少ない、股関節鏡による治療なども行なっており、外傷のみならず幅広く研修を積むことができます。

#### 【新潟県立十日町病院】

令和3年9月に開院したばかりのきれいな施設が魅力です。4名の整形外科常勤医が在籍し新潟大学や魚沼基幹病院からの派遣を受けており、多様な症例と手術経験を積むチャンスです。完全紹介制、クランクへのタスクシフト、医局内DX化など、医師の負担軽減を目指しています。医局内の垣根は低く、内科は総合診療を意識しており、協力体制が整っています。早くから導入している大腿骨近位部骨折リエゾンサービスは国際骨粗鬆症財団からNew FLSとして認められMap of Best Practiceに掲載されました。また令和6年5月からは手外科専門医による難治性疼痛外来も開設しました。きもの祭り、雪まつり、大地の芸術祭（ツールド妻有）など年間を通じて楽しめるイベントが盛んです。地域医療への貢献を通じて自己成長を促進し、充実したライフスタイルを享受できるようお手伝いします。

#### 【富永草野病院】

三条・燕・加茂市を中心とする県央地区の整形外科疾患を専門的な技術を持って治療しています。整形外科病床は100床で、整形外科専門医10名と形成外科専門医1名で対応しており、リウマチ、腫瘍、小児整形を含め全分野の研修に加えて、脊椎脊髄病と手外科の専門研修も可能です。さらに、リハビリテーションとリウマチの研修施設となっています。2024年の手術件数は2330、主なものは脊椎363、上肢・手840、下肢351、外傷614、スポーツ122、小児13、腫瘍27です。2025年は一層の手術数増加が予想されています。外来は整形外科一般の他に手外科、脊椎脊髄病、股関節、膝関節、肩関節、スポーツの専門外来を開設しており全ての分野において十分な研修が可能です。学会参加の援助も充実しており、元気な整形外科研修医を歓迎します。

#### 【新潟万代病院】

関節再建センターのある股関節を専門とした病院です。3名の股関節外科医がおり、手術は人工股関節置換術（THA）を主として、若年の寛骨臼形成不全股に対し、寛骨臼回転骨切り術も行っております。THAは年間300件を超えており、本年度からはロボット手術も開始いたします。股関節の患者様は大変多く、股関節について深く学べると思います。ロボット導入に伴い膝関節においても大学と協力して手術を開始する予定です。また外傷については少ない中でも、特に大腿骨近位部骨折がもっとも多く、股関節専門医の指導を受けることが可能です。

#### 【あがの市民病院】

2019年4月から『骨関節疾患センター』を開設し、外来、入院、手術などの診療・治療を行っています。治療だけではなく、介護が必要な状況を作らないよう骨粗鬆症の治療や転倒を防ぐリハビリなど予防医学にも力を入れ、健康寿命日本一を目指す阿賀野市と協力して取り組んでいます。

## 7. 専攻医受入数

専攻医1人あたりが経験可能な症例数を確保するため、当プログラムでは1年あたり3名、4年間で合計12名を受入数とする。

## 8. 地域医療・地域連携への対応

新潟市民病院においては、新患受け入れは紹介状を持参する方と、救急室を受診する方に制限しているため、診断のついていない一般整形外科患者を診察する機会は比較的少ない。新患受け入れ制限をしていない施設において、数多くの外来患者を診察し、整形外科疾患の患者を受け持ち、治療を担当することは重要な研修の一つである。このため、佐渡総合病院において、最低3ヶ月（3単位）勤務することとする。その際には地域病院における、救急診療体制や病診連携や病病連携などを経験する。

当プログラムに含まれる地域医療研修病院には経験の豊富な指導医が在職し、また定期的に新潟大学からの指導医が診療を行っているため、適切な指導を受けることが可能である。

## 9. 実際の研修予定

一般コースである新潟市重点コースでは、3年9か月間の研修期間中、基幹施設で約2年6か月間、連携施設において約1年3か月間の研修を行う予定である。研修1年目、2年目には基本的診察能力、基本的知識と技能の修得を目標とする。3年目の1年間は関連施設である新潟大学医歯学総合病院にて、実際の臨床の場において、自己の力で診断し標準的治療を行える能力の習得を目指す。また、学会への参加や発表、そして後輩の研修医の指導などを通じて知識の整理に努める。4年目には、臨床チームのリーダーとして治療を行うことや、地域医療研修、サブスペシャリティ研修、研究の発表能力の向上に努める。

また新潟県医師養成修学資金貸与修学生については卒業後一般コースでは6年間、重点コースでは9年間の新潟市外の病院勤務が必要となるが、当科地域枠コースでは基幹施設で1年から1年半の研修を行い、魚沼基幹病院、県立新発田病院、県立中央病院、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院等、新潟市外地域中核病院での研修が行える。

各学年において年間120件以上3年9か月間で500件以上の手術を執刀し、学会研究会で年1回以上発表、そして3年9か月間で最低1編以上の論文を作成することを目標とする。

### 新潟市集中型年次別研修例

年次		
1年目	新潟市民病院にて研修	
2年目	新潟市民病院にて研修	新潟中央病院にて研修
3年目	新潟中央病院にて研修	新潟大学病院にて研修
4年目	佐渡総合病院	新潟市民病院に戻り研修，専門医試験準備

3年目後半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定。

### 地域枠専攻医向け年次別研修例

年次		
1年目	地域基幹病院Aにて研修	
2年目	地域基幹病院Bにて研修	
3年目	新潟大学病院にて研修	新潟市民病院にて研修
4年目	新潟市民病院にて研修，専門医試験準備	

3年目前半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定。

## 10. サブスペシャリティ領域との連続性について

当プログラム基幹施設である新潟市民病院には脊椎・脊髄外科（脊椎脊髄外科指導医 2 名）、関節外科、スポーツ整形外科（日本体育協会認定スポーツドクター1 名）、外傷、手の外科（手外科専門医 1 名）、リハビリテーション（日本整形外科運動器リハビリテーション医 2 名）などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務している。また、連携施設には骨軟部腫瘍、小児整形、肩関節外科、足の外科、リウマチ、骨代謝などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務している。専攻医が希望する場合には、将来のサブスペシャリティを見据えて、研修期間の後半に専門的な研修を受けることが可能である。

## 11. 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計 6 ヶ月以内とする。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することになる。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれぞれ証明するものの提出が必要である。留学、診療実績のない大学院の期間を研修期間に組み入れることはできない。また、研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年延期になる場合がある。専門研修プログラムの移動には、移動前・後のプログラム統括責任者及び研修委員会の同意が必要である。

## 12. 専門研修プログラムを支える体制

### ①基幹病院の体制

基幹施設である新潟市民病院は、昭和 52 年から研修医の採用を開始し、これまで 40 年近くの実績がある。また、病院として医療安全、感染予防、情報セキュリティ、医療の質改善などに積極的に取り組んでおり、また医師向けの多くの研修会が開催されている。さらに、研修医に対して研修のみでなく生活面でのサポートが充実している。臨床面では地域の基幹病院として各科専門医を揃え、最新医療機器を整備し、高いレベルの治療が可能である。そして今後も指導管理責任者を中心に研修プログラムの問題点を評価し、改善を継続する。

### ②労働環境、労働安全、勤務条件

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努める。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮する。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにする。

具体的な労働環境、労働安全、勤務条件等は各施設の病院規定によるが、年間で夏季休暇 5 日、年次休暇 5 日以上が保証されている。

### ③専門研修プログラムの改善

- 1) 1 年ごとに専攻医による各指導医ならびにプログラム全体の評価を行う。
- 2) この評価は無記名で行い、各専攻医に不利益が生じないように行う。
- 3) この専攻医による評価を基に、年 1 回プログラムの改善について研修プログラム管理委員会による検討を行い次年度の研修の改善を実施する。

## 13. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

### ① 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と指導医評価及び症例登録を web 入力で行う。

### ② 人間性などの評価の方法

指導医は研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表を用いて入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価する。

### ③ プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した①整形外科専攻医研修マニュアル②整形外科指導医マニュアル③専攻医取得単位報告書④専攻医評価表⑤指導医評価表⑥カリキュラム成績表を用いる（日本整形外科学会ホームページ参照）。

## 14. 専攻医の採用

1) 2025年度プログラムに関する予定は以下の通りです。

専攻医採用試験：2024年9月より

※ 応募にあたっては、選考日までに見学もしくはオンラインでの面談が必要です

2) 申請に必要な書類

- ①新潟市民病院 整形外科専門研修プログラム応募申請書(本人自筆・写真貼付)
- ②所属長の推薦状（書式は問いません）
- ③医師免許のコピー
- ④小論文 テーマ『自身が目指す医師像』

3) 「新潟市民病院 整形外科専門研修プログラム応募申請書」の入手方法

新潟市民病院ホームページよりダウンロード（予定）

4) 申請書類の提出先

〒950-1197 新潟市中央区鍾木 463-7 新潟市民病院 専門研修支援室  
新潟市民病院 整形外科専門研修プログラム統括責任者 宛

5) 採用試験の内容

面接など

6) 採用結果の通知について

合格者については、各人毎に連絡します。

7) 追加募集について

専攻医の応募状況によっては、随時追加募集を行います。申請に必要な書類や採用試験の内容は一次募集と同様といたします。

8) 詳細についての問い合わせ先（病院見学の申し込みも）

- ・全ての情報は新潟市民病院ホームページに適宜掲載します。
- ・不明な点があれば、以下に連絡をお願いします。

①Tel025-281-5151：専門研修支援室 内線 4628、FAX 025-281-5187

②E-mail：[senmon@hosp.niigata.niigata.jp](mailto:senmon@hosp.niigata.niigata.jp)

③整形外科 部長 瀬川博之 ([segawa@hosp.niigata.niigata.jp](mailto:segawa@hosp.niigata.niigata.jp))